



ストレージノードを管理します

StorageGRID

NetApp
November 04, 2025

目次

ストレージノードを管理します	1
Manage Storage Nodes：概要	1
[ストレージ]オプションを使用します	1
オブジェクトのセグメント化とは	1
ストレージボリュームのウォーターマークとは何ですか？	2
オブジェクトメタデータストレージを管理する	5
オブジェクトメタデータとは	5
オブジェクトメタデータの格納方法	5
オブジェクトメタデータの格納先	6
メタデータリザーブスペースの設定	6
メタデータ用にリザーブされている実際のスペース	7
実際にリザーブされているメタデータスペースの例	8
許可されているメタデータスペースです	9
許可されるメタデータスペースの例	10
サイズの異なるストレージノードがオブジェクト容量に与える影響	11
Metadata Reserved Space 設定の増加	12
格納オブジェクトを圧縮します	14
ストレージノード設定	15
LDR	15
LDR> データストア	16
LDR > Storage の順にクリックします	16
LDR > Verification の順に選択します	17
LDR> イレイジャーコーディング	18
LDR > Replication の順に選択します	19
ストレージノードがいっぱいになったときの管理	19
ストレージボリュームを追加します	20
ストレージ拡張シェルフを追加する	20
ストレージノードを追加します	20

ストレージノードを管理します

Manage Storage Nodes：概要

ストレージノードは、ディスクストレージの容量とサービスを提供します。ストレージノードの管理には次の作業が必要です。

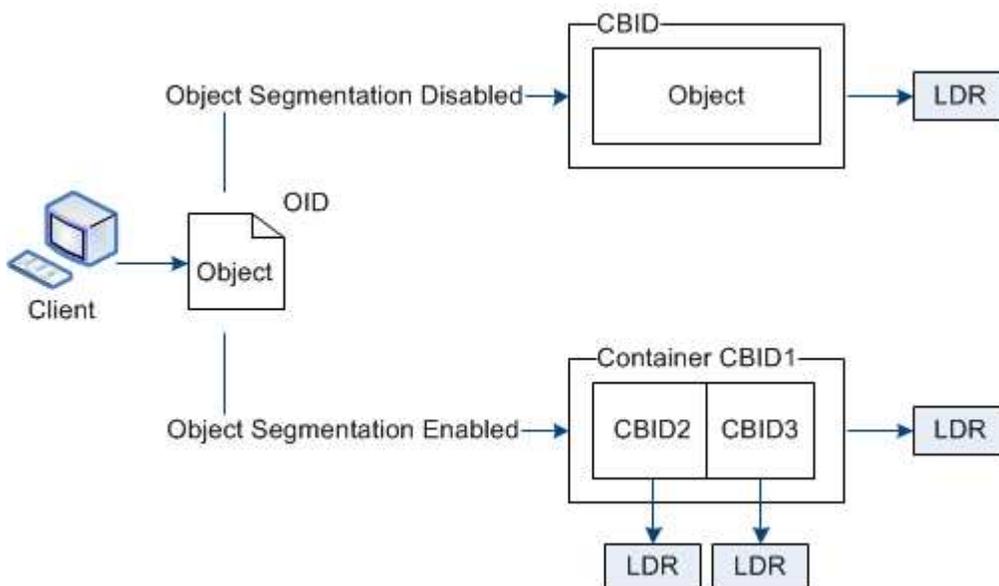
- ストレージオプションの管理
- ストレージボリュームのウォーターマークと、ストレージノードが読み取り専用になったときにウォーターマークの上書きを使用して制御する方法を理解する
- オブジェクトメタデータに使用されるスペースの監視と管理
- 格納オブジェクトのグローバル設定
- ストレージノード設定を適用しています
- 容量が上限に達したストレージノードの管理

[ストレージ]オプションを使用します

オブジェクトのセグメント化とは

オブジェクトのセグメント化は、オブジェクトを小さな固定サイズのオブジェクトの集まりに分割して、大きなオブジェクトのストレージとリソースの使用を最適化するプロセスです。S3 のマルチパートアップロードでもセグメント化されたオブジェクトが作成され、各パートを表すオブジェクトが1つ作成されます。

オブジェクトが StorageGRID システムに取り込まれると、LDR サービスはオブジェクトを複数のセグメントに分割し、すべてのセグメントのヘッダー情報をコンテンツとして表示するセグメントコンテナを作成します。



セグメントコンテナを読み出す際、LDR サービスは各セグメントから元のオブジェクトを組み立て、クライアントに返します。

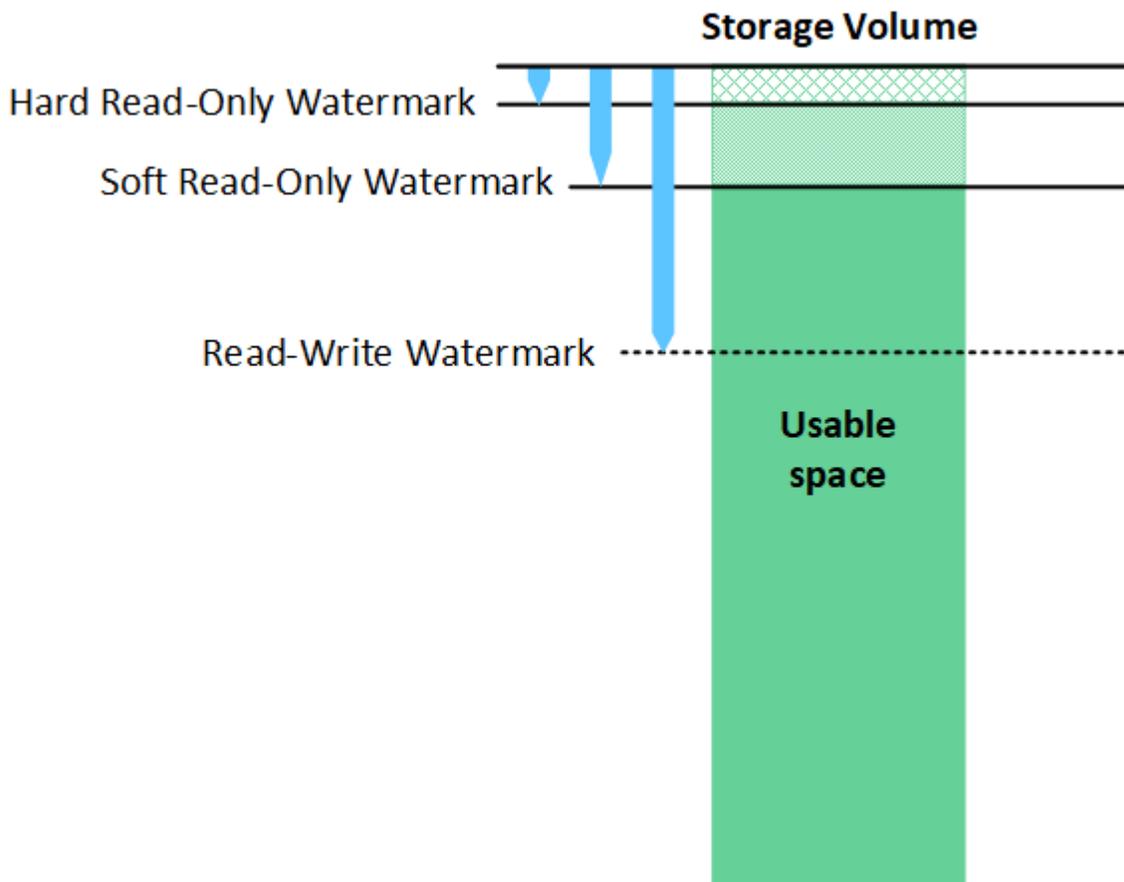
コンテナとセグメントは、必ずしも同じストレージノードに格納されるとは限りません。コンテナとセグメントは、ILM ルールで指定されたストレージプール内の任意のストレージノードに格納できます。

各セグメントは StorageGRID システムによって個別に処理され、Managed Objects や Stored Objects などの属性の対象としてカウントされます。たとえば、StorageGRID システムに格納されているオブジェクトが 2 つのセグメントに分割された場合、取り込みが完了すると次のように Managed Objects の値が 3 つ増えます。

segment container + segment 1 + segment 2 = three stored objects

ストレージボリュームのウォーターマークとは何ですか？

StorageGRID では、ストレージボリュームのウォーターマークを 3 つ使用して、スペースの深刻な低下を発生させる前にストレージノードを読み取り専用状態に安全に移行し、読み取り専用状態に移行して再び読み取り / 書き込み可能にすることができます。



ストレージボリュームのウォーターマークは、レプリケートオブジェクトデータとイレイジャーコーディングオブジェクトデータに使用されるスペースにのみ適用されます。ボリューム 0 でオブジェクトメタデータ用にリザーブされているスペースについては、[を参照してください "オブジェクトメタデータストレージを管理する"](#)。

Soft Read-Only Watermark とは何ですか？

Storage Volume Soft Read-Only Watermark * は、オブジェクトデータに使用可能なストレージノードのスペースがフルに近づいていることを示す最初のウォーターマークです。

ストレージノード内の各ボリュームの空きスペースがそのボリュームの Soft Read - Only Watermark より少ない場合、ストレージノードは `_read-only mode_` に移行します。読み取り専用モードでは、ストレージノードは StorageGRID システムの他の要素にサービスが読み取り専用であることをアドバタイズしますが、保留中の書き込み要求はすべて実行します。

たとえば、ストレージノード内の各ボリュームにソフト読み取り専用の Watermark が 10GB の場合、各ボリュームの空きスペースが 10GB 未満になると、ストレージノードはソフト読み取り専用モードに移行します。

Hard Read-Only Watermark とは何ですか？

Storage Volume Hard Read-Only Watermark * は、オブジェクトデータに使用可能なノードのスペースがフルに近づいていることを示す 2 つ目のウォーターマークです。

ボリュームの空きスペースがそのボリュームのハード読み取り専用ウォーターマークよりも小さい場合、ボリュームへの書き込みは失敗します。ただし、他のボリュームへの書き込みは、それらのボリュームの空きスペースがハード読み取り専用のウォーターマークよりも少なくなるまで続行できます。

たとえば、ストレージノード内の各ボリュームに Hard Read-Only Watermark が 5GB の状態であるとし、各ボリュームの空きスペースが 5GB 未満になると、ストレージノードは書き込み要求を受け付けなくなります。

Hard Read-Only Watermark は、常に Soft Read-Only Watermark より小さくなります。

Read-Write Watermark とは何ですか

読み取り専用モードに移行した * Storage Volume Read-Write Watermark * 専用環境 ストレージノード。また、ノードが再度読み取り / 書き込み可能になるタイミングを決定します。ストレージノード内のいずれかのストレージボリュームの空きスペースがそのボリュームの Read-Write Watermark より大きい場合、ノードは自動的に読み取り / 書き込み状態に戻ります。

たとえば、ストレージノードが読み取り専用モードに移行したとします。また、各ボリュームの Read-Write Watermark が 30GB であるとし、ボリュームの空きスペースが 30GB に増えると、そのノードは再び読み取り / 書き込み可能になります。

Read-Write Watermark は、Soft Read-Only Watermark および Hard Read-Only Watermark より常に大きくなります。

ストレージボリュームのウォーターマークを表示する

現在のウォーターマーク設定とシステムに最適化された値を表示できます。最適化された透かしが使用されていない場合は、設定を調整できるかどうかを判断できます。

作業を開始する前に

- StorageGRID 11.6以降へのアップグレードが完了している。
- を使用して Grid Manager にサインインします "[サポートされている Web ブラウザ](#)"。
- を使用することができます "[rootアクセス権限](#)"。

現在の透かし設定を表示します

Grid Manager で、現在のストレージのウォーターマーク設定を表示できます。

手順

1. * support > other > Storage watermark *を選択します。
2. [Storage Watermarks]ページで、[Use optimized values]チェックボックスを確認します。
 - このチェックボックスをオンにすると、ストレージノードのサイズとボリュームの相対容量に基づいて、すべてのストレージノードのすべてのストレージボリュームに対して3つのウォーターマークがすべて最適化されます。

これがデフォルトで推奨される設定です。これらの値は更新しないでください。必要に応じて、を実行できます [最適化されたストレージウォーターマークを表示する](#)。

- [最適化された値を使用]チェックボックスがオフの場合、カスタム（最適化されていない）ウォーターマークが使用されます。カスタム透かし設定の使用はお勧めしません。この手順を使用します "[ロー読み取り専用のウォーターマーク上書きアラートのトラブルシューティング](#)" 設定を調整できるかどうかを判断するには、次の手順に従います。

カスタムウォーターマーク設定を指定する場合は、0より大きい値を入力する必要があります。

最適化されたストレージウォーターマークの表示

StorageGRID は、2つの Prometheus 指標を使用して、* Storage Volume Soft Read-Only Watermark * に対して計算された最適値を表示します。グリッド内の各ストレージノードの最適化された最小値と最大値を表示できます。

1. [**support**>]、[*Tools]、[*Metrics] の順に選択します。
2. Prometheus セクションで、Prometheus ユーザーインターフェイスへのリンクを選択します。
3. 推奨されるソフト読み取り専用の最小ウォーターマークを確認するには、次の Prometheus 指標を入力し、* Execute * を選択します。

```
storagegrid_storage_volume_minimum_optimized_soft_readonly_watermark
```

最後の列には、各ストレージノード上のすべてのストレージボリュームに対して Soft Read-Only Watermark の最小最適値が表示されます。この値が * Storage Volume Soft Read - Only Watermark * のカスタム設定より大きい場合、ストレージノードに対して * Low read-only watermark override * アラートがトリガーされます。

4. 推奨されるソフト読み取り専用の最大ウォーターマークを確認するには、次の Prometheus 指標を入力し、* Execute * を選択します。

```
storagegrid_storage_volume_maximum_optimized_soft_readonly_watermark
```

最後の列には、各ストレージノード上のすべてのストレージボリュームに対して Soft Read-Only Watermark の最大最適値が表示されます。

オブジェクトメタデータストレージを管理する

StorageGRID システムのオブジェクトメタデータ容量は、そのシステムに格納できるオブジェクトの最大数を制御します。StorageGRID システムに新しいオブジェクトを格納するための十分なスペースを確保するには、StorageGRID がオブジェクトメタデータを格納する場所と方法を理解する必要があります。

オブジェクトメタデータとは

オブジェクトメタデータは、オブジェクトについて記述された任意の情報です。StorageGRID では、オブジェクトメタデータを使用してグリッド全体のすべてのオブジェクトの場所を追跡し、各オブジェクトのライフサイクルを継続的に管理します。

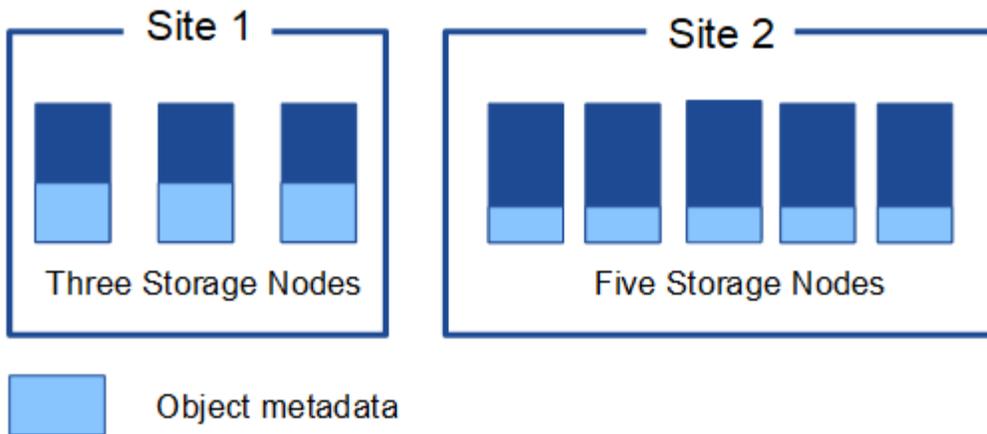
StorageGRID のオブジェクトの場合、オブジェクトメタデータには次の種類の情報が含まれます。

- システムメタデータ（各オブジェクトの一意の ID（UUID）、オブジェクト名、S3 バケットまたは Swift コンテナの名前、テナントアカウントの名前または ID、オブジェクトの論理サイズ、オブジェクトの作成日時など）、オブジェクトが最後に変更された日時。
- オブジェクトに関連付けられているカスタムユーザメタデータのキーと値のペア。
- S3 オブジェクトの場合、オブジェクトに関連付けられているオブジェクトタグのキーと値のペア。
- レプリケートオブジェクトコピーの場合、各コピーの現在の格納場所。
- イレイジャーコーディングオブジェクトコピーの場合、各フラグメントの現在の格納場所。
- クラウドストレージプール内のオブジェクトコピーの場合、外部バケットの名前とオブジェクトの一意の識別子を含むオブジェクトの場所。
- セグメント化されたオブジェクトやマルチパートオブジェクトの場合、セグメント ID とデータサイズ。

オブジェクトメタデータの格納方法

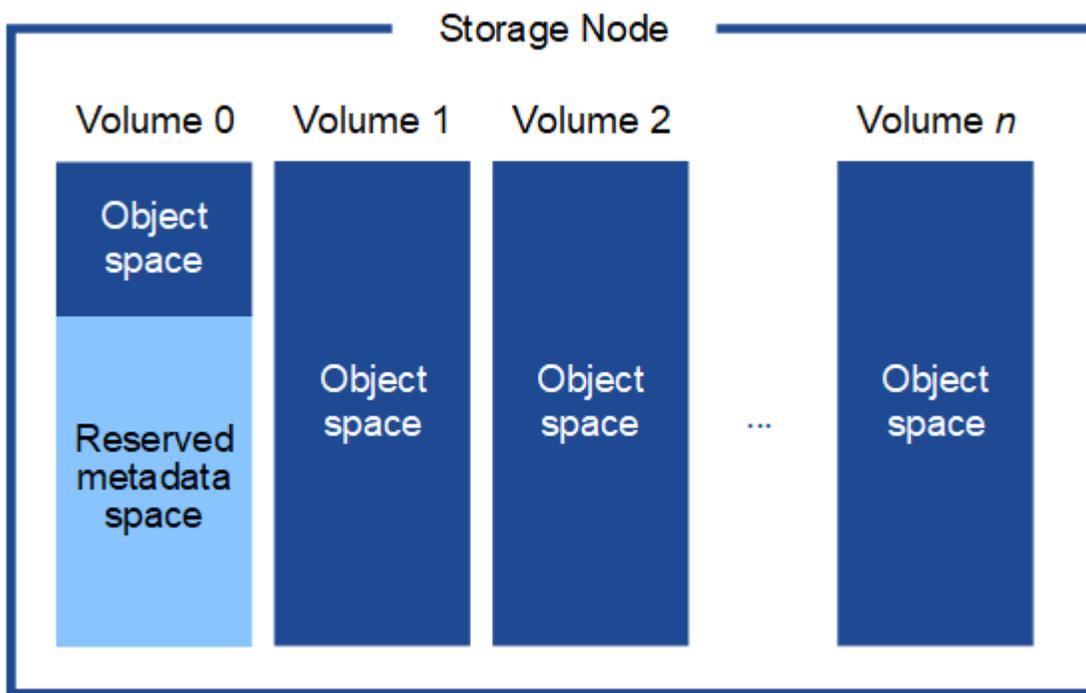
StorageGRID は Cassandra データベースにオブジェクトメタデータを保持し、Cassandra データベースはオブジェクトデータとは別に格納されます。冗長性を確保し、オブジェクトメタデータを損失から保護するために、StorageGRID は各サイトのシステム内のすべてのオブジェクトにメタデータのコピーを 3 つずつ格納します。

この図は、2 つのサイトのストレージノードを表しています。各サイトには同じ量のオブジェクトメタデータが格納され、各サイトのメタデータがそのサイトのすべてのストレージノードに分割されます。



オブジェクトメタデータの格納先

この図は、単一のストレージノードのストレージボリュームを表しています。



図に示すように、StorageGRID は各ストレージノードのストレージボリューム 0 にオブジェクトメタデータ用のスペースをリザーブします。リザーブスペースを使用してオブジェクトメタデータを格納し、重要なデータベース処理を実行します。ストレージボリューム 0 の残りのスペースとストレージノード内のその他すべてのストレージボリュームは、オブジェクトデータ（レプリケートコピーとイレイジャーコーディングフラグメント）専用に使われます。

特定のストレージノードでオブジェクトメタデータ用にリザーブされるスペースの量は、いくつかの要因によって異なります。以下にその例を示します。

メタデータリザーブスペースの設定

Metadata reserved space_ は、各ストレージノードのボリューム0でメタデータ用にリザーブされるスペースの量を示すシステム全体の設定です。次の表に示すように、この設定のデフォルト値は次の基準に基づいてい

ます。

- StorageGRID の最初のインストール時に使用していたソフトウェアバージョン。
- 各ストレージノード上の RAM の容量。

StorageGRID の初期インストールに使用するバ ージョン	ストレージノード上の RAM の容量	Metadata Reserved Spaceのデフォルト設定
11.5 ~ 11.8	グリッド内の各ストレージノード で 128GB 以上	8 TB (8、000 GB)
	グリッド内の任意のストレージノ ードで 128GB 未満	3TB (3、000GB)
11.1 ~ 11.4	いずれかのサイトの各ストレージ ノードで 128GB 以上	4TB (4、000GB)
	各サイトのストレージノードで 128GB 未満	3TB (3、000GB)
11.0以前	任意の金額	2TB (2、000 GB)

メタデータリザーブスペースの設定を表示

StorageGRIDシステムのMetadata Reserved Space設定を表示するには、次の手順を実行します。

手順

1. >[システム]>[ストレージ設定]*を選択します。
2. [ストレージ設定]ページで、*[メタデータリザーブスペース]*セクションを展開します。

StorageGRID 11.8以降では、Metadata Reserved Spaceの値が100GB以上1PB以下である必要があります。

各ストレージノードに128GB以上のRAMが搭載されているStorageGRID 11.6以降の新規インストールのデフォルト設定は8、000GB (8TB) です。

メタデータ用にリザーブされている実際のスペース

システム全体のMetadata Reserved Space設定とは異なり、オブジェクトメタデータ用の_actual reserved space_forはストレージノードごとに決定されます。あるストレージノードについて、メタデータ用に実際にリザーブされるスペースは、そのノードのボリューム0のサイズ、およびシステム全体でのMetadata Reserved Spaceの設定によって異なります。

ノードのボリューム 0 のサイズ	メタデータ用にリザーブされている実際のスペース
500 GB未満 (非本番環境での使用)	ボリューム 0 の 10%

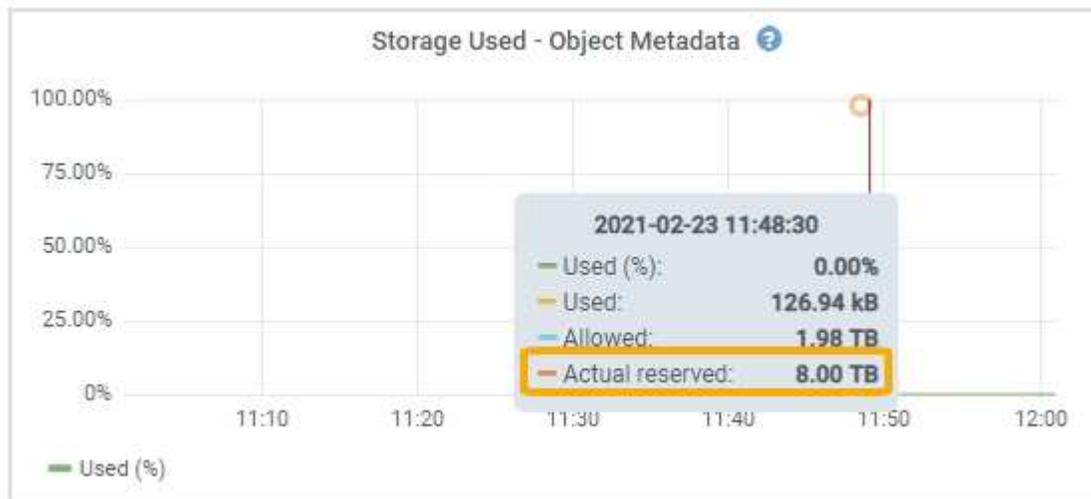
ノードのボリューム 0 のサイズ	メタデータ用にリザーブされている実際のスペース
500 GB以上 または+ メタデータ専用ストレージノード	<p>次の値のうち小さい方：</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボリューム0 • メタデータリザーブスペースの設定 <p>注：メタデータのみストレージノードに必要なrangedbは1つだけです。</p>

メタデータ用に実際にリザーブされているスペースを表示する

特定のストレージノードでメタデータ用に実際にリザーブされているスペースを表示する手順は、次のとおりです。

手順

1. Grid Manager から * nodes * > * _ Storage Node_ * を選択します。
2. [* ストレージ *] タブを選択します。
3. [Storage Used - Object Metadata]グラフにカーソルを合わせ、* Actual Reserved *の値を確認します。



スクリーンショットでは、実際の予約数 * の値は 8TB です。このスクリーンショットは、StorageGRID 11.6 を新規にインストールした大規模ストレージノードのもので、システム全体のMetadata Reserved Space設定はこのストレージノードのボリューム0よりも小さいため、このノードの実際にリザーブされるスペースはMetadata Reserved Space設定と同じになります。

実際にリザーブされているメタデータスペースの例

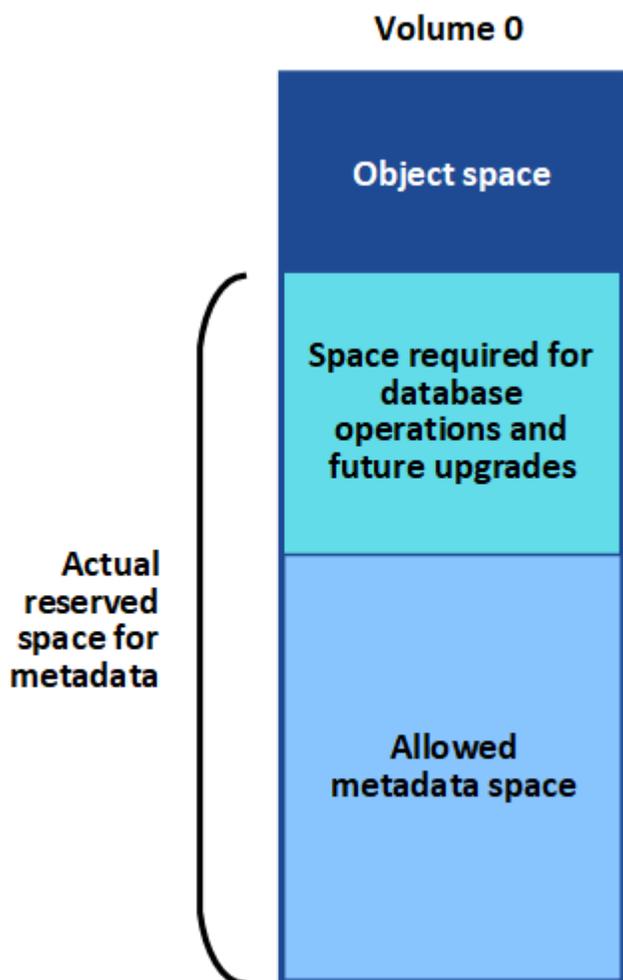
バージョン11.7以降を使用して新しいStorageGRIDシステムをインストールしたとします。この例では、各ストレージノードのRAMが128GBを超え、ストレージノード1 (SN1) のボリューム0が6TBであるとしています。次の値に基づきます。

- システム全体の* Metadata Reserved Space *が8TBに設定されています。(各ストレージノードのRAMが128GBを超える場合、新しいStorageGRID 11.6以降のインストールのデフォルト値です)。

- SN1 のメタデータ用にリザーブされている実際のスペースは 6TB です。（ボリューム0が* Metadata Reserved Space *設定より小さいため、ボリューム全体がリザーブされます）。

許可されているメタデータスペースです

メタデータ用に実際に予約されている各ストレージノードは、オブジェクトメタデータに使用できるスペース（許容されるメタデータスペース）と、重要なデータベース処理（コンパクションや修復など）や将来のハードウェアおよびソフトウェアのアップグレードに必要なスペースに分割されます。許可されるメタデータスペースは、オブジェクトの全体的な容量を決定します。



次の表に、各ストレージノードのメモリ容量とメタデータ用に実際にリザーブされているスペースに基づいてStorageGRID で許容されるメタデータスペース*がどのように計算されるかを示します。

		ストレージノード上のメモリ容量	
	<128 GB	>=128 GB	メタデータ用に実際にリザーブされているスペース

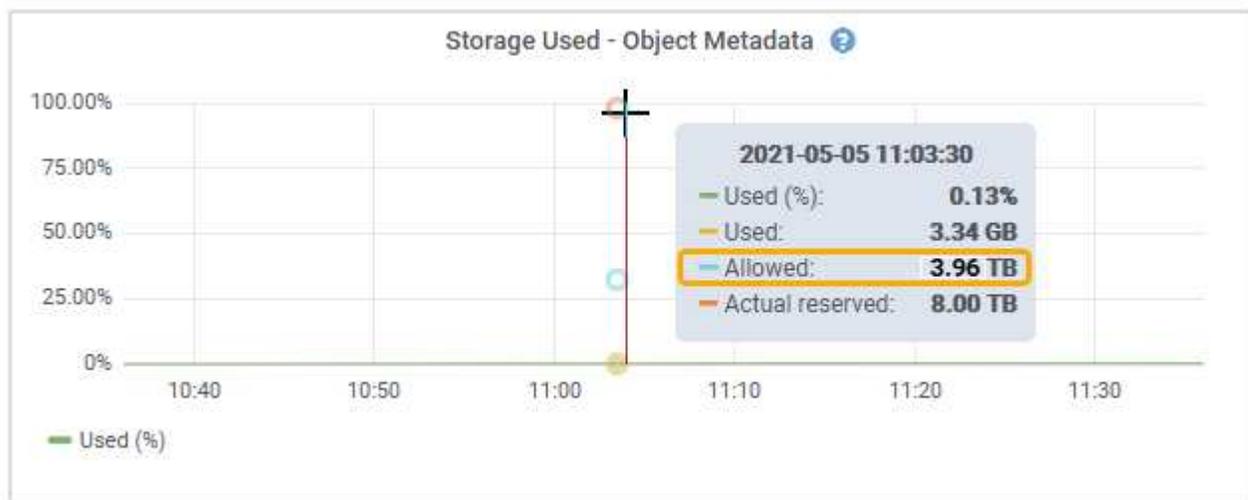
←4 TB	メタデータ用にリザーブされている実際のスペースの60%、最大1.32TB	メタデータ用にリザーブされている実際のスペースの60%。最大1.98 TB	> ; 4 TB
-------	--------------------------------------	---------------------------------------	------------

許可されているメタデータスペースを表示する

ストレージノードで許可されているメタデータスペースを表示するには、次の手順を実行します。

手順

1. Grid Manager から * nodes * を選択します。
2. ストレージノードを選択します。
3. [* ストレージ *] タブを選択します。
4. [Storage Used - object metadata]グラフにカーソルを合わせ、* allowed *の値を確認します。



スクリーンショットでは、「許可」の値は3.96TBです。これは、メタデータ用に実際にリザーブされているスペースが4TBを超えるストレージノードの最大値です。

「* Allowed *」の値は、次の Prometheus 指標に対応します。

`storagegrid_storage_utilization_metadata_allowed_bytes`

許可されるメタデータスペースの例

バージョン 11.6 を使用して StorageGRID システムをインストールするとします。この例では、各ストレージノードの RAM が 128GB を超え、ストレージノード 1 (SN1) のボリューム 0 が 6TB であるとして、次の値に基づきます。

- システム全体の * Metadata Reserved Space * が 8TB に設定されています。(各ストレージノードの RAM が 128GB を超える場合の StorageGRID 11.6 以降のデフォルト値です)。

- SN1 のメタデータ用にリザーブされている実際のスペースは 6TB です。（ボリューム0が* Metadata Reserved Space *設定より小さいため、ボリューム全体がリザーブされます）。
- SN1でのメタデータの許容スペースは、に示す計算に基づいて3TBです [メタデータに使用できるスペースの表](#)：（メタデータ用に実際にリザーブされるスペース-1TB）×60%、最大3.96TB。

サイズの異なるストレージノードがオブジェクト容量に与える影響

前述したように、StorageGRID は各サイトのストレージノードにオブジェクトメタデータを均等に分散します。このため、サイトにサイズが異なるストレージノードがある場合、サイトで一番小さいノードがサイトのメタデータ容量を決定します。

次の例を考えてみましょう。

- サイズの異なる 3 つのストレージノードを含む単一サイトのグリッドがある。
- Metadata Reserved Space *設定は4TBです。
- ストレージノードには、リザーブされている実際のメタデータスペースと許可されているメタデータスペースについて、次の値があります。

ストレージノード	ボリューム 0 のサイズ	リザーブされている実際のメタデータスペースです	許可されているメタデータスペースです
SN1	2.2 TB	2.2 TB	1.32TB をサポートしません
SN2	5 TB	4 TB	1.98 TB
SN3	6TB	4 TB	1.98 TB

オブジェクトメタデータはサイトのストレージノード間で均等に分散されるため、この例の各ノードが格納できるメタデータは 1.32TB です。SN2およびSN3で使用できる追加の0.66TBのメタデータスペースは使用できません。



同様に、StorageGRID は各サイトで StorageGRID システムのすべてのオブジェクトメタデータを管理するため、StorageGRID システム全体のメタデータ容量は最小サイトのオブジェクトメタデータ容量で決まります。

また、オブジェクトメタデータの容量はオブジェクトの最大数に制御されるため、一方のノードがメタデータの容量を超えると、実質的にグリッドがフルになります。

関連情報

- 各ストレージノードのオブジェクトメタデータ容量を監視する方法については、の手順を参照してください ["StorageGRID の監視"](#)。
- システムのオブジェクトメタデータ容量を増やすには、 ["グリッドを展開する"](#) 新しいストレージノードを追加する。

Metadata Reserved Space 設定の増加

ストレージノードがRAMおよび使用可能スペースに関する特定の要件を満たしている場合は、Metadata Reserved Spaceシステム設定を増やすことができます。

必要なもの

- を使用して Grid Manager にサインインします ["サポートされている Web ブラウザ"](#)。
- を使用することができます ["Root Access権限またはGrid Topology Page Configuration権限およびOther Grid Configuration権限"](#)。

このタスクについて

システム全体のMetadata Reserved Space設定を手動で8TBを増やすことができます。

次の両方に該当する場合にのみ、「Metadata Reserved Space」設定の値を増やすことができます。

- システムの任意のサイトのストレージノードには、それぞれ 128GB 以上の RAM が搭載されています。
- システムの任意のサイトのストレージノードには、ストレージボリューム 0 上に十分な利用可能スペースがあります。

この設定を大きくすると、すべてのストレージノードのストレージボリューム 0 でオブジェクトストレージに使用できるスペースが同時に減少することに注意してください。そのため、想定されるオブジェクトメタデータの要件に基づいて、Metadata Reserved Space を 8TB 未満の値に設定することを推奨します。



一般的には、より低い値ではなく、より高い値を使用することをお勧めします。Metadata Reserved Space 設定が大きすぎる場合は、あとで設定を縮小できます。一方、値をあとで大きくした場合は、オブジェクトデータを移動してスペースを解放しなければならないことがあります。

Metadata Reserved Spaceの設定が特定のストレージノードでオブジェクトメタデータストレージに使用できるスペースに与える影響の詳細については、[を参照してください](#)。 ["オブジェクトメタデータストレージを管理する"](#)。

手順

1. 現在の Metadata Reserved Space 設定を確認します。
 - a. * 設定 * > * システム * > * ストレージ・オプション * を選択します。
 - b. 「ストレージウォーターマーク」セクションで、「* Metadata Reserved Space *」の値を確認します。
2. この値を増やすには、各ストレージノードのストレージボリューム 0 に十分な利用可能スペースがあることを確認してください。
 - a. [* nodes (ノード)] を選択します

- b. グリッドの最初のストレージノードを選択します。
- c. Storage (ストレージ) タブを選択します。
- d. Volumes セクションで、`* /var/local/rangedb/0 *` エントリを探します。
- e. 使用可能な値が、使用する新しい値と現在の Metadata Reserved Space 値の差以上であることを確認します。

たとえば、Metadata Reserved Space 設定が現在 4TB の場合に、6TB に拡張するには、使用可能な値を 2TB 以上にする必要があります。

- f. すべてのストレージノードに対して上記の手順を繰り返します。
 - 1 つ以上のストレージノードに十分な利用可能スペースがない場合は、Metadata Reserved Space の値を増やすことはできません。この手順を続行しないでください。
 - 各ストレージノードのボリューム 0 に十分な利用可能スペースがある場合は、次の手順に進みます。

3. 各ストレージノードに 128GB 以上の RAM があることを確認してください。

- a. `[* nodes (ノード)]` を選択します
- b. グリッドの最初のストレージノードを選択します。
- c. `[* ハードウェア *]` タブを選択します。
- d. メモリ使用状況グラフにカーソルを合わせます。合計メモリ `*` が 128 GB 以上であることを確認します。
- e. すべてのストレージノードに対して上記の手順を繰り返します。
 - 1 つ以上のストレージノードに使用可能な合計メモリが十分でない場合は、Metadata Reserved Space の値を増やすことはできません。この手順を続行しないでください。
 - 各ストレージノードの合計メモリが 128GB 以上の場合は、次の手順に進みます。

4. Metadata Reserved Space 設定を更新します。

- a. `* 設定 *` > `* システム *` > `* ストレージ・オプション *` を選択します。
- b. `[構成]` タブを選択します。
- c. `[記憶域の透かし]` セクションで、`[* Metadata Reserved Space *]` を選択します。
- d. 新しい値を入力します。

たとえば、サポートされている最大値である 8TB を入力するには、「`* 8000000000000 *` (8、0 が 12 個)」と入力します。

Storage Options

- Overview
- Configuration

Configure Storage Options

Updated: 2021-12-10 13:48:23 MST

Object Segmentation

Description	Settings
Segmentation	Enabled ▼
Maximum Segment Size	1000000000

Storage Watermarks

Description	Settings
Storage Volume Read-Write Watermark Override	0
Storage Volume Soft Read-Only Watermark Override	0
Storage Volume Hard Read-Only Watermark Override	0
Metadata Reserved Space	800000000000

[Apply Changes](#)

a. 「* 変更を適用する *」を選択します。

格納オブジェクトを圧縮します

オブジェクトの圧縮を有効にすると、StorageGRID に格納されているオブジェクトのサイズを縮小して、オブジェクトによるストレージ消費量を削減できます。

作業を開始する前に

- を使用して Grid Manager にサインインします "サポートされている Web ブラウザ"。
- これで完了です "特定のアクセス権限"。

このタスクについて

デフォルトでは、オブジェクトの圧縮は無効になっています。圧縮を有効にすると、StorageGRID はロスレス圧縮を使用して各オブジェクトを保存時に圧縮しようとします。



この設定を変更すると、新しい設定が適用されるまで約 1 分かかります。設定した値は、パフォーマンスと拡張用にキャッシュされます。

オブジェクトの圧縮を有効にする前に、次の点に注意してください。

- 格納されているデータが圧縮可能であることがわかっている場合を除き、*[Compress stored objects]*を選択しないでください。
- StorageGRID にオブジェクトを保存するアプリケーションは、オブジェクトを圧縮してから保存することがあります。クライアントアプリケーションがすでにオブジェクトを圧縮してから StorageGRID に保存している場合は、このオプションを選択してもオブジェクトのサイズがさらに縮小されることはありません。
- StorageGRID で NetApp FabricPool を使用している場合は、[Compress Stored Objects]*を選択しないでください。

- [Compress stored objects]*を選択した場合は、S3およびSwiftクライアントアプリケーションで、返されるバイト数の範囲を指定するGetObject処理を実行しないようにする必要があります。これらの「範囲読み取り」処理は効率的ではありません。StorageGRIDでは、要求されたバイトにアクセスするためにオブジェクトの圧縮を実質的に解除する必要があるためです。非常に大きなオブジェクトから小さい範囲のバイト数を要求するGetObject処理は特に非効率的です。たとえば、50GBの圧縮オブジェクトから10MBの範囲を読み取る処理は非効率的です。

圧縮オブジェクトから範囲を読み取ると、クライアント要求がタイムアウトする可能性があります。



オブジェクトを圧縮する必要があり、クライアントアプリケーションが範囲読み取りを使用する必要がある場合は、アプリケーションの読み取りタイムアウトを増やしてください。

手順

1. * configuration > System > Storage settings > Object compression *を選択します。
2. [Compress stored objects]*チェックボックスを選択します。
3. [保存 (Save)]を選択します。

ストレージノード設定

各ストレージノードでは、複数の設定とカウンタを使用します。アラーム（従来のシステム）をクリアするには、現在の設定の表示またはカウンタのリセットが必要になる場合があります。



ドキュメントで特に指示された場合を除き、ストレージノード設定を変更する前にテクニカルサポートにお問い合わせください。必要に応じて、イベントカウンタをリセットしてレガシーアラームをクリアできます。

ストレージノードの設定とカウンタにアクセスするには、次の手順を実行します。

手順

1. サポート * > * ツール * > * グリッドトポロジ * を選択します。
2. 「 * site * > * _ Storage Node * 」を選択します。
3. ストレージノードを展開し、サービスまたはコンポーネントを選択します。
4. [* 構成 *] タブを選択します。

次の表に、ストレージノードの構成設定をまとめます。

LDR

属性名 (Attribute Name)	コード	説明
HTTPの状態	HSTE	<p>S3、Swift、およびその他の内部StorageGRID トラフィックのHTTPの現在の状態。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Offline : 処理は許可されず、クライアントアプリケーションが LDR サービスへの HTTP セッションを開こうとするとエラーメッセージが表示されます。アクティブなセッションは正常終了します。 • Online : 処理は正常に続行されます
HTTP を自動起動します	HTAS	<ul style="list-style-type: none"> • このオプションを選択すると、再起動時のシステムの状態は * LDR * > * Storage * コンポーネントの状態によって異なります。再起動時に * ldr*>* Storage* コンポーネントが読み取り専用の場合、HTTP インターフェイスも読み取り専用です。LDR * > * Storage * コンポーネントが Online の場合、HTTP も Online になります。それ以外の場合は、HTTP インターフェイスは Offline 状態のままです。 • 選択しない場合、HTTP インターフェイスは明示的に有効にするまで Offline のままです。

LDR> データストア

属性名 (Attribute Name)	コード	説明
Lost Objects 数をリセットします	RCOR	このサービス上にある損失オブジェクト数のカウンタをリセットします。

LDR > Storage の順にクリックします

属性名 (Attribute Name)	コード	説明
ストレージの状態 — 望ましい	SSD	<p>ストレージコンポーネントに求める状態をユーザが設定できます。LDR サービスはこの値を読み取り、指定されたステータスに一致するように試みます。この値は、再起動後も維持されます。</p> <p>たとえば、この設定を使用すると、使用可能なストレージスペースが十分にある場合でも、ストレージを強制的に読み取り専用にすることができます。これはトラブルシューティングに役立ちます。</p> <p>この属性には次のいずれかの値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Offline : 目的の状態が Offline の場合、LDR サービスは * LDR * > * Storage * コンポーネントをオフラインにします。 • Read-only : LDR サービスはストレージの状態を Read-only に移行し、新しいコンテンツの受け入れを停止します。ただし、LDR サービスは引き続き S3 または ILM ベースのパーズ要求と削除要求を受け入れます。開いているセッションが閉じられるまでの短時間の間、コンテンツが引き続きストレージノードに保存される可能性があります。 • Online : 通常システム運用中は、値を Online のままにします。ストレージの状態 — ストレージコンポーネントの現在の状態は ' 使用可能なオブジェクトストレージ容量などの LDR サービスの状態に基づいてサービスによって動的に設定されます。スペースが少ない場合、コンポーネントは読み取り専用になります。
ヘルスチェックタイムアウト	SHCT	<p>ストレージボリュームが正常であるとみなされるために、ヘルスチェックテストが完了する必要がある秒数。この値は、サポートから指示があった場合のみ変更してください。</p>

LDR > Verification の順に選択します

属性名 (Attribute Name)	コード	説明
欠落オブジェクト数のリセット	VCMI	<p>OMIS (Missing Objects Detected) の数をリセットします。オブジェクトの存在チェックが完了した後、のみ使用します。欠落しているレプリケートオブジェクトデータは、StorageGRID システムによって自動的にリストアされます。</p>

属性名 (Attribute Name)	コード	説明
検証レート	VPRI (VPRI)	バックグラウンド検証を実行する際のレートを設定します。バックグラウンド検証レートの設定に関する情報を参照してください。
破損オブジェクト数のリセット	VCCR	バックグラウンド検証中に見つかった、破損しているレプリケートされたオブジェクトデータのカウンタをリセットします。このオプションを使用すると、OCOR (Corrupt Objects Detected) アラームの状態をクリアできます。
隔離オブジェクトを削除します	OQRT の場合	<p>破損したオブジェクトを隔離ディレクトリから削除し、隔離されたオブジェクトの数をゼロにリセットして、Quarantined Objects Detected (OQRT) アラームをクリアします。このオプションは、破損したオブジェクトが StorageGRID システムによって自動的にリストアされたあとに使用します。</p> <p>Lost Objects アラームがトリガーされた場合、テクニカルサポートが隔離されたオブジェクトにアクセスを試みる可能性があります。隔離されたオブジェクトが、データのリカバリや、オブジェクトコピーの破損の原因となった根本的な問題のデバッグに役立つ場合があります。</p>

LDR> イレイジャーコーディング

属性名 (Attribute Name)	コード	説明
書き込みエラー数をリセットします	RSWF	イレイジャーコーディングオブジェクトデータのストレージノードへの書き込みエラーのカウンタをリセットします。
読み取りエラー数をリセットします	RSRF	イレイジャーコーディングオブジェクトデータのストレージノードからの読み取りエラーのカウンタをリセットします。
Reset Deletes Failure Count (エラーカウントをリセット)	自衛隊	イレイジャーコーディングオブジェクトデータのストレージノードからの削除エラーのカウンタをリセットします。
破損コピーのリセット検出数	RSCC	ストレージノード上にあるイレイジャーコーディングオブジェクトデータの破損コピー数のカウンタをリセットします。
破損フラグメントのリセット検出数	RSCD	ストレージノード上にあるイレイジャーコーディングオブジェクトデータの破損フラグメントのカウンタをリセットします。

属性名 (Attribute Name)	コード	説明
欠落フラグメントの検出数をリセットします	RSMD	ストレージノード上にあるイレイジャーコーディングオブジェクトデータの欠落フラグメントのカウンタをリセットします。オブジェクトの存在チェックが完了した後にのみ使用します。

LDR > Replication の順に選択します

属性名 (Attribute Name)	コード	説明
インバウンドレプリケーションエラー数をリセットします	RICR	インバウンドレプリケーションエラーのカウンタをリセットします。これを使用すると、RIRF (Inbound Replication - - Failed) アラームをクリアできます。
アウトバウンドレプリケーションのエラー数をリセットします	ROCR	アウトバウンドレプリケーションエラーのカウンタをリセットします。これを使用すると、RORF (Outbound Replications - - Failed) アラームをクリアできます。
インバウンドレプリケーションを無効にします	DSIR	<p>メンテナンスまたは手順のテストの一環としてインバウンドレプリケーションを無効にする場合に選択します。通常の運用中はオフのままにします。</p> <p>インバウンドレプリケーションを無効にすると、オブジェクトをストレージノードから読み出してStorageGRID システム内の別の場所にコピーすることはできますが、他の場所からこのストレージノードにオブジェクトをコピーすることはできません。つまり、LDRサービスは読み取り専用です。</p>
アウトバウンドレプリケーションを無効にします	DSOR	<p>メンテナンスまたは手順のテストの一環としてアウトバウンドレプリケーション (HTTP 読み出し用のコンテンツ要求を含む) を無効にする場合に選択します。通常の運用中はオフのままにします。</p> <p>アウトバウンドレプリケーションを無効にすると、このストレージノードにオブジェクトをコピーすることはできますが、ストレージノードからオブジェクトを読み出してStorageGRID システム内の別の場所にコピーすることはできません。LDR サービスは書き込み専用です。</p>

ストレージノードがいっぱいになったときの管理

ストレージノードの容量が上限に達した場合は、新しいストレージを追加してStorageGRID システムを拡張する必要があります。ストレージボリュームの追加、スト

レージ拡張シェルフの追加、ストレージノードの追加の 3 つのオプションがあります。

ストレージボリュームを追加します

各ストレージノードは最大数のストレージボリュームをサポートします。定義されている最大値はプラットフォームによって異なります。ストレージノードのストレージボリュームが最大数より少ない場合は、ボリュームを追加して容量を増やすことができます。の手順を参照してください ["StorageGRID システムの拡張"](#)。

ストレージ拡張シェルフを追加する

一部のStorageGRIDアプライアンスストレージノード（SG6060やSG6160など）では、追加のストレージシェルフをサポートできます。拡張機能が最大容量まで拡張されていない StorageGRID アプライアンスがある場合は、ストレージシェルフを追加して容量を増やすことができます。の手順を参照してください ["StorageGRID システムの拡張"](#)。

ストレージノードを追加します

ストレージノードを追加してストレージ容量を増やすことができます。ストレージを追加する場合は、現在アクティブな ILM ルールと容量の要件について慎重に検討する必要があります。の手順を参照してください ["StorageGRID システムの拡張"](#)。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。